

管理のポイント

水稲・・・品種固有の特性維持のために、全量種子更新を行ってください。

麦・・・排水対策を確実に行ってください。2月下旬～3月上旬は穂肥の施用時期です。

野菜・・・春作に向けて、作付け計画の作成・寒起こしの適期です。

水稲

【種子更新】

種子更新は、品種特性の確保と品質向上の為の必須事項です。

自家採種を毎年繰り返していると、品種の特性が次第に薄れ収量も低下します。米卸し業者や流通段階ではDNA鑑定を随時行っており、品種特性の確保は米の販売において必須事項となっています。

麦

【生育状況】

播種時期(11月初旬)から天候に恵まれ、気候も穏やかだったため生育は順調に進んでいますが、播種時期により生育差が見られます。また、今後も積雪の可能性があり、また湿田で茎数の確保ができていない圃場においては、穂肥までの茎数アップのための追肥と排水対策を行いましょ。目安としては、チッソ成分で2kg/10a程度の追肥を行ってください。

※一発肥料で追肥を行う場合はチッソ成分で1～2kg/10aを目安に散布しましょう

【①化成肥料 20-0-10 の場合 5～10 kg/10a ②オル14 の場合 10～15 kg/10a】

※後期重点施肥の場合は茎立期までにチッソ成分1～2kg/10aを目安に散布しましょう

【①化成肥料 20-0-10 の場合 5～10 kg/10a ②オル14 の場合 10～15 kg/10a】

※ただし、後期重点施肥で追肥を行った場合は穂肥の時に先に施用した追肥分を減量し施用してください(例：穂肥でN13kg/10a施用と考え、今回追肥をN2kg/10a施用した場合は、穂肥施用量はN11kg/10aとしてください 化成肥料 20-0-10 の場合 55kg/10a)

標準的なほ場



追肥の必要なし
穂肥を通常とおり
2月下旬～3月上旬施用

茎数の少ないほ場



追肥の必要あり
雪解け後できるだけ早く施用
チッソ成分で2kg/10a
(オル14の場合10～15kg/10a)

【今後の管理】

○ 排水対策の徹底・穂肥時期

今後の施肥は穂をつくるためや、品質を上げるために重要な作業となります。施肥時期は暖冬年では早くなるため、播種日以降の気温や麦の生育状況を見て判断し、適期施用で収量・品質アップを図りましょう!!

肥料施用前に排水溝やほ場内に水が溜まっている場合は、必ず排水溝等の湿害対策をしっかりと実施してから肥料散布を行いましょ。根が湿害を受けていると肥料の吸収が阻害され、せっかくの肥料の効果が最大限に発揮されません。

穂肥施用時期の目安は、分施肥体系で2月下旬～3月上旬、後期重点施肥で茎立期ごろ（2月中旬～下旬）です。

分施肥体系では、3月上旬の茎数の目安は700本/m²とされています。3月上旬で茎数が多い（700本/m²を上回る）場合は、過剰分げつを抑制するため、施肥量を基準よりやや減らし、小麦の生育調整を図りましょ。

※後期重点型施肥栽培

後期重点型施肥栽培では、播種時の基肥をゼロに減量し、穂肥で麦の総チッソ量7～8割（N成分量10～11kg/10a）の施用を行う栽培方法で、収量も近年の試験では通常栽培より反収が良く注目されている栽培技術となります。また、3月中旬までは茎数は少なく推移しますが、それ以降は通常栽培と同等以上の生育となります。また、後期重視の施肥のため、葉色は3月中旬まで淡く推移しますが、それ以降の葉色は濃く推移するため成熟期は遅れる傾向にあります。

施用時期	施肥型	肥料名	施肥量
2月下旬～ 3月上旬	分施肥	化成肥料 20-0-10	20 kg
	2回施肥	セラコート R2500	30 kg
2月中旬～ 下旬ごろ 茎立期に施用	後期重点施肥	化成肥料 20-0-10	60 kg
		尿素	30 kg

※基肥に麦パンチ（一発肥料）を散布している場合は穂肥の施用は必要ありませんが、葉色の低下が著しい場合は、追肥を検討する必要があります。

野菜【作付け計画を立てるうえでのポイント】

① 栽培時期にあった野菜・品種の植え付けを行います。

野菜には播種、植付けに適した時期があるため、同じ野菜でも、品種によって栽培時期を確認しなくてはいけないものがあります。例えばホウレンソウには春播用と秋播用があるため、播種時期により品種を選ばなくてはなりません。

② 連作は避けてください。

野菜は同じ場所で同じ種類・あるいは同じ科目の野菜を続けて栽培すると、生育が極端に悪くなったり、枯れたりします。これを連作障害といい、連作障害を回避するためには連作を避けることや、やむを得ない時は接ぎ木苗を植えるなどの対策が必要です。基本的には、畑をいくつかのエリアに分割し同じ場所で同じ野菜を栽培しないようにローテーションを組んで作付けします。

【連作障害の出やすい野菜と出にくい野菜】

連作障害の出やすい野菜	エンドウ、ナス、スイカ	7年以上休栽
	ゴボウ、トマト、ピーマン、サトウダイコン	5～6年休栽
	ダイズ、シロウリ、ナガイモ、サトイモ	3～4年休栽
	キュウリ、ジャガイモ、インゲン	2年休栽
連作障害の出にくい野菜	サツマイモ、カボチャ、ニンジン、タマネギ、コマツナ、シュンギク、ニンニク、ショウガ、フキなど	

